

あきらめたらおしまい
- 自分の未来は自分の力で切り開こう -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. 自己紹介

- (1) 開倫塾 塾長
- (2) 公益社団法人 経済同友会 幹事、学校と企業・経営者の交流促進活動推進委員会 運営委員
- (3) 学校法人 有朋学園東日本高等学院 理事長
- (4) 宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
- (5) マニー株式会社(手術用縫合針製造)社外取締役
- (6) 栃木県教育委員会 栃木県社会教育委員
- (7) 社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑 理事
- (8) CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間 - 林明夫の歩きながら考える - 」毎週土曜日、午前 9 時 15 分 ~ 25 分放送、一人で担当、24 年目(1530kHz 1062kHz 864kHz)

2. 本日の講演会の目的

- (1) 学校の定期テストで 100 点満点を取り、また、希望校に合格するために大幅に学力を向上させ、偏差値を 10 以上アップさせる具体的な勉強方法を「理解」し、「身につけ」(「定着」)、「定期テストで 100 点満点を取ること、そして入学試験で成果を発揮する」(「応用」)こと。
- (2) この受験勉強を通じて、自分の力で「学び方を学ぶ能力」を身につけることで「学力を向上」させ、
 - 「人生の成功」
 - 「正常に機能する社会の形成」(持続可能な社会) } を目指す
- (3) 学力向上の前提
 - 学び方を学ぶ能力を身につける
 - 読書により思慮深さを身につける - 「書き抜き読書ノート」を -
 - 新聞を読んで自分で考える力、批判的思考能力(Critical Thinking)を身につける
 - 「新聞記事スクラップブック」を -
- (4) あきらめたらおしまい。自分の未来は自分の力で切り開こう。

3. 「学習の成果」 = 「本人の自覚」 × 「学習方法」 × 「学習時間」

(1) 本日の講演会は、学力を大幅に向上させる、学校の定期テストで 100 点満点を取り、また、がんばって偏差値を 10 以上アップさせるという「学習の成果」を目指します。そのために大切なのは、「本人の自覚」と「学習方法(勉強の仕方)」と「学習時間(勉強時間の長さ)」の 3 つです。どれ 1 つ欠けても偏差値 10 以上アップは望めません。

(2)

	本人の自覚	学習方法	学習時間	学習の成果
レベル	10	10	10	1000
	↑	↑	↑	↑
レベル	1	1	1	1

「本人の自覚」にも、「学習方法」にも、「学習時間」にも 1 ~ 10 くらいのレベルがあります。これはかけ算ですから、レベルがすべて 1 なら「学習成果」は $1 \times 1 \times 1 = 1$ となります。レベルがすべて 10 なら「学習成果」は $10 \times 10 \times 10 = 1000$ となります。1 つ 1 つのレベルを上げてできるだけ高い「学習成果」を目指しましょう。

(3) 一つ一つゆっくりとご説明しますので、よく聞いて、自分ならどうするか、どのようにして少しずつレベルを上げたらよいのかと自分のこととしてよく考えてみて下さい。「あきらめたらおしまい」です。自分の未来は自分の力で切り開く。絶対にあきらめないようがんばりましょう。

4. 「学習の成果」とは

(1) 皆様は学校や開倫塾で勉強して、その成果として何を目標としますか。その目標を決めましょう。

(2) 私は、本日の受講者の皆様に、学力の大幅向上、学校の定期テストで 100 点を取得すること、また、がんばって偏差値 10 以上アップを目標として持ってもらいたいと希望します。

(3) 学力が大幅に向上し、学校の定期テストで 100 点を取り、また、偏差値が 10 以上アップすると、^{せんたくし}選択肢が広がり、合格できる学校がグンと増えます。同じ人生を歩むなら、選択肢の少ない人生よりは選択肢の多い人生、多様な選択肢のある人生を歩んでももらいたいと、私は皆様に希望するからです。

(4)ただし、そのためには、自分自身で相当努力しなければなりません。学力を大幅に向上させ、学校の定期テストで100点を取り、また、偏差値を10以上アップさせ、合格の可能性のある学校を大幅に増やすには、自己責任・自助努力で「勉強の方法」(勉強の「手順」「順序」)を考え抜いた上で、全エネルギーを傾注しなければなりません。

(5)「勉強の方法」を考える上で、「勉強の手順・順序」を考えることは重要です。

A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---

どのような手順・順序で勉強を進めるか十分に作戦を練りましょう。

まずはじめにAをやる。AをやるときにはAに全エネルギーを傾注しましょう。Aが終わったら、次にBをやる。Bの次はC、Cの次はDというように「1つ1つのことに全精力を尽くし、次のステップに進みましょう」。

5. **本人の自覚**とは

(1)学習の成果を出すために第1に必要なのは、「自分は学校の定期テストで100点満点を取る」、「自分は来春 〇〇 という学校の入学試験を受ける受験生である」という「本人の自覚」です。この自覚があるかないかで、勉強に取り組む態度がガラッと異なります。

(2)「自分は学校の定期テストで100点満点を取る」、「自分は受験生である」とか「希望校名」をノートに書き、いつも眺めて「自覚」を深めましょう。また、紙に書き、机の前に貼って「自覚」を深めましょう。

(3)時々でよいですから、次のようなことも自分の力で考えましょう。

希望校に進学して何をするのか。

希望校を卒業後何をするのか、その上の学校に行くのか。

(ア)4年制大学

(イ)短期大学(2年)

(ウ)専門学校(3年)

(エ)大学院修士課程(2年)

(オ)大学院博士課程(3年)

(カ)専門職大学院(1~3年)

働くとしたらどのような仕事に就きたいのか。

Q.今学校でやっている勉強は役に立つのか、定期テストの勉強や受験勉強は役に立つのか。

A.(1)役に立ちます。すべて役に立ちます。

(2)例えば、高校での勉強は中学校で勉強したことがすべて身についたことが前提となっていますので、中学校での勉強は高校で役に立ちます。

(3)高校の勉強は大学や短大、専門学校、大学院でも役に立ちます。

(4)学校の勉強は世の中に出てからすべて役に立ちます。

(5)そこで、学校の教科書、教材は、学校を卒業後も捨てないですべてとっておき、時々読み返して下さい。

(6)捨ててしまったら、もう一度勉強するとき不便です。捨てるのはあまりにももったいないのが、学校の教科書と資料集、辞書です。

何のために働くのか(「働く意味」を考えよう)。

(ア)「生活できるための収入を得るため」

(イ)「お客様や社会のお役に立つため」

(ウ)「仕事を通して自己実現するため」

自分の将来のことの中でこの受験を捉え、自分の力で考えましょう。

(4)自分の人生について考えよう。

「人生は長い」

何のために生きるのか。

人は死んだ後、後の世に何が残せるのか。

「お金か、仕事か、作品か、教育か、生き方か」

(内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマルク国の話」岩波文庫)

どのような一生を自分は送りたいのか。

大切な自分のことですので、真剣に考えてみましょう。

(5)以上を、「自覚」を深めるために無理のない範囲で行ってほしいと希望します。自分で考えたこと・悩んだことを文章にまとめ、ノートに書いておくこともお勧めします。よい勉強になりますよ。

6. 「学習方法」とは - 「学び方を学ぶ能力」を身につけよう -

「自分は学校の定期テストで 100 点満点を取得するという自覚」や「受験生としての自覚」をいくら持っても、「学習方法」つまり「学習の手順、順序」を誤ったのでは学力は身につけません。偏差値が上がることはありません。

(1)「理解」とは

「理解」とは、学ぶべき内容を「うんなるほど」と「十分納得すること」「腑(ふ)に落ちること」。「理解」もしないで、問題集をやったり、テストを受けたり、模擬試験に臨んでも駄目です。

「理解」のために役に立つのが、学校や塾などの先生の授業を真剣によく聞き、授業に積極的に参加すること。

(ア)学校や開倫塾では、なぜ授業中に「遅刻」や「欠席」、「早退」、「おしゃべり」、「忘れ物」、「居眠り」、「ケータイ」、「徘徊」をしてはいけないか。それは、授業での「理解」の妨げになるからです。

(イ)「トイレ」もできるだけ家や授業前にすませて下さいね。ただ、あまりガマンをしないこと。必要な時は遠慮しないで先生に申し出て下さい。

授業中は、必要なことや大切と思われることは、徹底的にノートに取りましょう。「ノート」を取ることができるのは大切な「能力」です。この「ノートを取る能力」は、上の学校で勉強するときだけでなく仕事・社会での活動に役立ちます。「仕事はノートやメモで身につける」とさえ言われています。

教科書(テキスト)や参考書などを先生の授業を聞くようなつもりで、ゆっくり、ゆっくり読み進め、「うんなるほど」と「よくわかる」「納得する」「腑に落ちる」ことも「理解」に役立ちます。

(ア)1 つでもわからない「ことば」があったら、そのたびに、おっくうがらないで「国語辞典」や「英和辞典」を引くこと。

(イ)辞書を引いて調べた内容は、教科書やノート、ポストイットに、必ずメモしておくこと。

(ウ)メモしたものを何回も何回も読み直すこと。声を出して読み直し、身につけること。書き取り練習もすること。

(エ)理科や社会は学年別の参考書を辞書代わりに用いて、よくわからないことばや内容を調べましょう。

今の学年のことがよく理解できないときは、はずかしいと思わないで、前の学年やその前の学年に^{さかのぼ}って学習することをお勧めします。どうしてもわからないことは、先生に質問しましょう。

今の学年のことがよくわかっている場合には、次の学年や次の次の学年のやさしい参考書を手に入れて、その内容をどんどん勉強しましょう。勉強に遠慮は不要です。

(2) 「定着」とは

次に大切なことは、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を、「教科書(テキスト)」や「問題集」、授業中に取った「ノート」を中心にスミからスミまで正確に身につける、覚えることです。これを「定着」と言います。ただし、目でザッと読んでいるだけではあまり身につけません。「定着」のためにとっても役に立つのが「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の3つの練習です。

「音読練習」とは

その第1は、一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スラスラ口をついて出てくるまでにすること」「スラスラ言えるようにすること」です。

(ア)そのために効果的なのが、声を出して読む「音読練習」です。

(イ)教科書(テキスト)、問題集、ノートを大きな声(場所によっては自分にだけ聞こえる小さな声)で何回も、何十回も読むことで、スミからスミまで覚えてしまいましょう。

(ウ)特に「は～だ」という「ことばの意味(「定義」)」は全科目とも正確に言えるようにしましょう。

(エ)「音読練習」だけで、定期テストの点数が大幅に上がったたり、偏差値が5以上アップする人もいます。

「書き取り練習」とは

その第2は、「書いて覚える」こと、つまり「書き取り練習」です。教科書の書体(楷書)で丁寧に書きましょう。書き順も正確に身につけましょう。

- (ア)誤字脱字なく正確に書けない限り、点数にはならない場合が数多くありますよ。
- (イ)英語のスペリング(つづり字)、数学や理科の公式、社会の地図や固有名詞など、学校や開倫塾の教科書(テキスト)、「授業中のノート」に載っている文字や図などはすべて何も見ないで書けるようになるまで、「書く練習」を何回も何十回も繰り返して下さい。
- (ウ)これを「書き取り練習」と言います。
- (エ)「音読練習」と「書き取り練習」を徹底的に行い、定期テストで100点満点を取ったり、偏差値を10以上アップさせる人もたくさんいます。

「計算・問題練習」とは

学校や開倫塾の教科書(テキスト)に載っている計算や問題、授業中にやった計算や問題は、授業後にすべてやり直しましょう。やり直して、なぜそのような解答になるかがどうしてもわからなければ先生に質問しましょう。わからないまま放置しないことが大切です。

- (ア)その後が大事です。計算や問題がなぜそのような解答になったのか「うんなるほど」とよく「理解」できたら、計算や問題を見た瞬間に「パッ、パッ、パッ」と正解が口をついて出るまで、手が自然に動いてしまうまで、繰り返し、繰り返しやり直して下さい。
- (イ)これを「計算・問題練習」と言います。
- (ウ)「計算・問題練習」をして、なぜそのような解答になるかをよく「理解」した上でパッパッパッと条件反射で正解が出る計算や問題が多ければ多いほど、「定期テスト」や「実力テスト」、「模擬試験」、本番の「入学試験」で難しい問題に使える時間が増えます。
- (エ)じっくり考えさせる難しい計算や問題に用いる時間を増やすために、一度やった計算や問題はパッパッパッと数秒で正解が出るまでにしておきましょう。
- *開倫塾では、この3つの練習を「定着のための3大練習」と呼んでいます。

定着のための3大練習

①「音読練習」

- ・一度「うんなるほど」と「理解」した内容が口をついて正確に言えるようになるまで、声に出して読む練習をすること

②「書き取り練習」

- ・「音読練習」をして「口をついてスラスラ言えるようになった」ことが、「楷書」で正確に書けるようになるまで書く練習をすること

③「計算・問題練習」

- ・なぜそのような解答になるのか「うんなるほど」と「理解」した「計算や問題」を繰り返しやり直すことで、計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまでに練習すること

練習は不可能を可能にする(小泉信三先生)

(3) 「応用」とは

応用とは、「うんなるほど」と十分に「理解」した内容を、「定着」させ、スミからスミまで身につけ、学校の「定期テスト」で 100 点満点を取ること、「実力テスト」でよい点数を取ること、「模擬試験」で希望校に合格できるだけの偏差値を取ること、「入学試験」で合格点を取り合格することです。

そのためには、1 つ 1 つの試験について過去に出題された問題(これを「過去問」と言います)を数年分(3 ~ 5 年分)必ず自分の力で解いて下さい。

間違った問題については、必ずなぜ間違ったのか「誤答分析」をすること。「理解」が不足していたら教科書(テキスト)や参考書や辞書を用いながら「理解」を、「定着」が不足していたら「定着」のための 3 大練習をしましょう。

「過去問」は同じ問題を 1 回だけでなく、2 回以上できれば 5 回以上解き直すことが「応用力」の大幅向上の秘訣です。

英検の過去問も同じです。リスニングは CD を何十回、何百回も聴き直しましょう。

「テスト」や「入試」も大事ですが、「理解」、「定着」したことを「社会で役に立てること」が本当の「応用」です。今勉強していることは、社会に出てすべて役に立ちます。

(4) 家で勉強できない人は、図書館や開倫塾で勉強することをお勧めします。

7. **勉強時間** について

(1) 「睡眠時間 7 ~ 8 時間」、「生活に必要な時間 4 ~ 6 時間」以外の時間はすべて定期テストや受験勉強のために用いることをお勧めします。早寝・早起き・朝ごはん (炭水化物、ご飯、コーンフレーク、パン)

(2) 家で勉強できない塾生は、開倫塾の空いている机と椅子を使い、黒板と反対方向を向き、他の塾生の背中を見ながら、開倫塾の先生や事務の方が勤務している間中勉強して O.K. です。ただし、夜は 10:30 までです。おしゃべりや居眠り、ケータイはしてはいけません。ゴミはすべて家に持ち帰り、一切教室内外に残さないことも自習の絶対条件です。

* ゴミが山ほど出て困り果てているからです。

(3) 勉強時間が短いと学力は身につけません。勉強時間は短いよりは長いほどよい、長ければ長いほどよいと考えます。

(4) ファミコン、TV、メール、親子ゲンカ、悩むことをどうするかが大問題です。

(5)保護者は皆様のことを心配しています。感謝の心を持って定期テストや受験のための勉強をしましょう。

*家族にも、元気に大きな声であいさつしましょう。元気なあいさつは、すべてを明るくします。

(6)「悩む時間は30分まで」、いくら悩んでも成績は上がりません。

友達関係で悩んでいる人も、「元気にあいさつ」しましょう。一気に関係が改善します。勉強の仕方がわからず悩んでいる人は、自分で考えず、先生に相談しましょう。

(7)「定期テストで100点を取るぞという自覚」や「受験生としての自覚」を持って「自律的に活動する能力」を身につけよう。

*セルフコントロール、自分自身を律することができるのは大切な能力です。

(8)「机の上」と「カバンの中」はいつも「整理」、「整頓」を。

何をどこに置くか決めておくと、物を探す時間が大幅に減ります。

(9)自分たちが使う部屋の「掃除(そうじ)」を1日1回はして、「清潔」な部屋で勉強しましょう。

家の手伝いもどんどんしましょう。

定期テスト中であっても、また、受験勉強中であっても掃除をすることをお勧めします。トイレ掃除、フロ掃除、玄関や庭、家の外の掃除など、掃除は家を清潔にし、また、よい気分転換となります。掃除は自分の心の中をきれいにします。

(10)だれかに言われなくても、自分の意思、自分の力で自分の生活をかたちづくりましょう。

これを「躰」(しつけ)と言います。

5Sを身につけよう：「整理」「整頓」「掃除」「清潔」「躰」

(11)「美しい立居振舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い」を「躰」ということもあります。

*「躰」を身につけることは社会に出てとても役に立ちます。

(12)中学校、高校時代の友人は一生の友達。先生は一生の恩師。学校を卒業するまでの間、皆様と仲良く過ごし、友情を育てましょう。

8.「あきらめたらおしまい」です。-「あきらめない。自分の未来は自分で切り開く」で、この秋を過ごしましょう

以上

質問にお答えします。どんどん御質問下さい。